

## 1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

## 【評価実施概要】

事業所番号	1971000011
法人名	社会福祉法人 愛寿会
事業所名	グループホームやすらぎ
所在地	〒 408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間1293 電話番号 0551-32-3340

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成19年9月27日	評価確定日	平成19年10月26日

## 【情報提供票より】平成19年8月30日 事業所記入

## (1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日						
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人				
職員数	8人	常勤	8人	非常勤	0人	常勤換算	8人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	4 階建ての - ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input type="checkbox"/> 有( ) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1000 円			

## (4) 利用者の概要 平成19年8月30日 現在

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	向井医院 山梨甲陽病院 有賀歯科 藤井平皮膚科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成19年10月10日

社会福祉法人として、特養、グループホームなどの介護保険事業、障害者自立支援事業などを行い、地域の福祉拠点としての役割を果たし、大きな信頼を得ている。開設当初から、望ましいグループホームとしてのあり方を理念高く掲げ実践を積み重ねている。職員体制も常勤者である。運営も長年の特養でのノウハウが活かされ、仕事との仕組みづくりと各種帳簿はよく整備されている。また法人全体で「おしゃれの日」を励行したことで、利用者全員が互いに意識し、自ら身だしなみを整えられるようになり、自立支援に繋がっている。今後も、利用者への介護の質の向上を目指し、域密着型サービスとしてさらなる取り組みが期待される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善点として玄関の施錠について、運営推進委員会や関係者で真摯に受け止め検討されたが、地域的な特性もあり外部者の侵入を防御するには施錠せざるを得ないことが合意された。しかし、利用者の外出傾向は職員が察知し、希望をかなえる対処はされている。また、身体拘束の問題については前回改善点にあがったが、すぐに対応がなされ改善につながった。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 月一回のモニタリングはもとより、毎日職員間で利用者ごとに問題点を取り上げ記録に残している。計画作成担当者はその内容を集約し、自己評価を作成し、その評価について職員の意見を求めている。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に一回開催され、玄関の施錠について議題として検討され、地域的な特性もあり、現状が妥当である事が支持されている。また、回を重ねるごとに、利用者の住居法の問題や、待機者の人への対処、軽度の認知症の人への処遇など、現在直面している問題について、運営推進委員会に議題として検討されている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 利用者ごとの担当職員が、家族へ暮らしぶりや健康状態を必ず手紙とホーム便りや写真を添えて郵送している。また、家族の来訪時、日常の様子や金銭の管理状況も一緒に報告されている。家族の要望などに関しては、相応の理解にズレが生じないよう十分な話し合いが望まれる。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 法人全体としては地域との交流は活発だ。グループホーム独自としては祭りや運動会などの参加はあるが、反面、雰囲気壊さない気遣いもされている。地域密着型サービスとして、地域から必要とされる、開かれたホームになる取り組みに期待したい。職員の、地元の高校で認知症の理解を深める講演活動は、地域の連携につながる取り組みとなっている。

## 2. 調査報告書

事業所名：グループホームやすらぎ

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から、「地域に開かれたグループホーム」、「グループホームは地域交流の中で作られていくもの」という理念でスタートしている。地域密着型の位置づけも、職員会議や法人の運営に関する会議でも学習や話合いの機会を持ち、理念の確認をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	保育園の運動会の招待を受け、参加する時も、単に参加するだけでなく、理念を具体化する良い機会ととらえ、職員と話合いながら、牛乳パック細工を手土産にすることを決めて、日々の取り組みに具体化している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭りに参加したり小学校などの運動会への招待も受けている。反面、ホーム内の雰囲気壊さない気遣いがされているが、更に地域から必要とされる、開かれたホームになる事への取り組みに期待したい。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回指摘された改善点を、地域運営委員会に図ったり、代表者や関係職員で検討された。今回の自己評価は、毎日職員間で利用者ごとに問題点を取り上げ、検討した記録と毎月のモニタリングでの話し合いが集約されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一回は開催され、玄関の施錠問題が改善点となり地域的な特性もあり、現状が妥当であることが支持された。他にも、土地柄、住居法の問題や、待機者の扱い、軽度の認知症の人への処遇、重度化の検討などが取り上げられている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議や地域包括支援センターとの情報交換は行われているが、市の担当者と共に、課題解決についての話し合いなど取り組むまで至っていない。	○	現在ホームが抱えている、待機者の問題や住居法など地域福祉を推進する立場の市との連携を強化する事によって、実態を共有し、解決に結びつけるような取り組みを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者ごとに担当職員が決めてあり、家族の元に暮らしぶりや健康状態、必ず手紙と共にホーム便りか写真を添えて郵送している。また家族の来訪時、日常の様子を丁寧に説明している。金銭の管理状況も一緒に報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの、利用者が病気になった時の通院の付き添いの要望は、十分に把握がされている。また対応も臨機応変に支援されているが、家族との認識のズレが起きないような工夫が望まれる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への影響を踏まえながら、法人全体の職員のレベルを上げる取り組みの中に、グループホームは職員の質を高める職場として位置づけられている。新人は母体の施設で経験をつんで異動になることから、利用者への影響を見ながら実施されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者は外部で研修を受けてきて、必ず全員で共有している。法人内の研修は1ヶ月に一回開催される。また、職場内では、毎月一回持ち回りで、担当の選んだ研修テーマを発表し、職員全員で検討する方法が定例化し、職員の質を高める取り組みにつながっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この地域における研修の場を提供したり、申し出があれば全てのものに、門戸をひらいて、いつでも受け入れる体制は出来ている。地域内に同業者がいないこともあり、交流までは至っていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居するまでに、利用者と家族に必ず見学の機会を設けている。また、家庭訪問や、生活歴などを把握し関係づくりをしている。宿泊体験までは実施していないが、日中の体験(お茶を飲んだり、レクレーションに参加など)して、馴染みながらの利用につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	若い職員にとっては、料理の作り方や味付けなどを伝授してもらい、6ヶ月たつと一人で夕食が作れるように上達する。四季の自然の花を職員は持ち寄り、利用者の手で生けられ、居室や玄関や食卓に飾るなど、ホーム内の雰囲気作りをみんなで行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシートには、利用者、家族の思い、意向がしっかりと把握され、記録されている。また日々の過ごし方も利用者の意向をよく聞くようにし、それにあわせて支援するように努力されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の意向を反映した介護計画が作成されている。また、家族にも計画作成担当者から、説明し意見をいただきながら、あわせて同意を得るようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングがされており、細やかな計画変更が行われている。また記録も詳細にされているし、状況変化に対してもその都度見直されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域運営会議(運営推進会議)で多機能性を活かした支援について、議題として取り上げている。その中で、「赤ちゃんとの交流」について、意見をいただいたり、具体化にむけて検討したが実現していない。	○	具体化するまでには、いくつかのハードルがありますが、グループホームやすらぎの持っている完備された施設、優秀な人材、地域からの信頼を活用して、具体化することを期待したい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設施設の嘱託医が主治医(9名中8名)で、連携が密にとられている。入居前からのかかりつけ医という利用者が1名いるが、定期受診は家族が行っている。また、緊急時はグループホームが対応するようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームとしての方針はターミナルケアに対応することとしている。地域運営会議でも取り上げられている。要介護4になったら、本人、家族、かかりつけ医と話し合いを具体的にはじめることが、合意されている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	禁句集を活用した研修を行ったり、利用者と職員の会話から、一人ひとりを尊重した会話や支援がされている。また、個人情報に関する書類の保管についても必要時以外施錠がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者ごとの生活歴からある程度日課は決められているが、自由にアクティビティを変更する事もでき、柔軟に対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	部屋の中に、料理の匂いやお茶碗を並べる音など五感を刺激されるような食事の準備状況である。現在は介助の必要な利用者はいないが、楽しい会話を演出しながら職員も一緒にいただいている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後3時から9時はいつでも入浴できるように、職員体制もとられている。記録からも毎日の人、1日おきの人それぞれの希望を組み合わせ、楽しめるような支援がされている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	行事予定表が行事、園芸、健康管理、その他という4項目について、1ヶ月毎に毎日計画がされている。また、その実施状況報告もある。利用者の力をそれらの中でひきだすことが意図的にとりくまれている。それが気晴らし、楽しみにもなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、ゴミ出し、農産物の直売への買い物などの機会に加え、グループホームから自由に出て、特養の中庭、喫茶、デイサービスの行事への参加など希望にそって、外出の支援がされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関に施錠はあるが、簡易式で利用者は自由に外にでかけている。職員会議、地域管理会議などで話し合いがされ、地域的な特性もあり、現状が妥当であることが合意されている。ドアの動きにあわせた音がしたり、玄関に気配りすることを心がけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月防災訓練をおこなっている。日中、夜間のどちらの対応もされている。年1回は消防署や消防団との合同訓練もある。備蓄に関しては、法人全体として、備えがあるが、3日間はグループホーム単独でも備えがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	新鮮な農産物が常に食材となり、献立を併設の管理栄養士にチェックされ調理をし、栄養バランスなどが把握されている。検食簿も残されており、また体重の変動による体調管理にも気を使っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	お花が一年中、玄関、居室、食堂、和室など、利用者の手によって生けられている。ホームの中心部が幾分暗く感ずるが、インテリアとして明かりが雰囲気マッチしている。南側に食堂やソファがあり、冬に掘りコタツが作られる和室がある。各コーナーの休憩所に利用者が集う事を理想とし、イスなどが配置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は贅沢な広さとなっており、各居室の間隔も互いの生活が保たれるように、配置されている。居室内は、馴染みの家具や絵画やお花などを飾り、その人らしく暮らせるような環境を整えている。		